

## イル・ド・フランス柔道会との国際交流 兼グランドスラムパリ視察

(財)東京都柔道連盟は、国際交流事業の一環として、ここ数年来相互訪問により交流しているフランス最大の地域団体である、イル・ド・フランス柔道会からの要請を受けて、グランドスラムパリ視察を兼ねたフランス訪問を実施しました。

大会結果については、全日本柔道連盟HP等で既報のとおり、日本選手団は金メダル5個、銀メダル2個、銅メダル3個という、先の東京世界選手権には及びませんでした。海外での国際大会としては立派な成績でした。残念ながら最高に盛り上がった+100kg級決勝では、世界選手権の雪辱を期すフランスのリネール選手が、日本の上川選手を序盤から圧倒し「大外刈」技有りから押さえ込み、合わせ技一本で勝利を飾りました。上川選手も準決勝までは世界チャンピオンらしい堂々とした試合振りで勝ち上がっていただけに、改めてリネール選手の強さと気迫を見せ付けられた感じでした。

大会視察を通じて感じたことは、次のとおりです。

### 1、大会運営

- (1) 試合場係は2名2組の交代制で、僅か2名の係員でタイマー（電光掲示板）の操作から担当試合場の放送までスムーズにこなしていた。
- (2) タイマーは画面が大型かつ鮮明で非常に見やすく、パソコン操作で適確に運用されていた。日本においても統一仕様のシステムを開発し、各大会で共用できるようにすることが望ましい。
- (3) 大会は4試合場で行われていたが、プログラムのトーナメント表は階級ごとの試合順番だけの表示で、試合場の表示が無かったため、日本選手がどの試合場で試合するのか分からず、戸惑うことが多かった。試合場と試合順番がリンクしたプログラム表示が望ましいと感じた。
- (4) 審判はどうしてもフランス選手寄りのジャッジが多く、中村美里選手や佐藤愛子選手は審判に泣かされた感じが強かった。  
今大会、日本唯一の審判員で、今回都柔連の派遣役員として我々と同行した天野 修常任理事のご息女でもある天野安喜子審判員は、歯切れのいい動作と発声で、堂々たる審判振りであった。

### 2、会場の受付、案内、接待

受付や会場案内に相当な人数をかけており、大変スムーズに運営され、気持ちよく観戦できた。昼食はレストラン形式でフランス料理やワインが出され、他にソフトドリンクコーナーもありサービスが行き届いていた。食事会場内にはモニターが数台設置され試合模様や進行状況が把握できるようになっていた。

### 3、応援

日本の場合は、国際大会の場合でも選手の所属企業や在学中あるいは卒業した学校の応援が主となるが、フランスでは会場全体がフランス選手を応援する一方で、他国の選手でも見事な技が決まった時は惜しみなく拍手を送っていた。観客は本当によく柔道を知っている感じが強かった。

又、表彰式ではフランス国歌を歌う時はみんながよく声を出して堂々と歌っており何かと遠慮がちな日本との違いが感じられた。

## イル・ド・フランス柔道会との交流

試合の合間や会食の機会を捉えて、イル・ド・フランス柔道会のジェラー会長、エリック前会長（現フランス柔道連盟副会長）はじめ、各役員の方々と

- ① ジュニア選手の育成強化
- ② カデ以下の少年選手の試合に関する検討
- ③ 交流の内容に関する検討

について福田会長を中心に活発な意見交換を行いました。

特にフランスでは禁止されているカデ未満（小学生及び中学生の一部に相当）の少年少女選手の試合について、今後継続して情報交換を行って行くこととした。

最後にこの場を借りまして、今回の訪問期間中を通じて大変お世話になりました天理大学OBでパリ在住の萩原信之先生に厚く御礼申し上げます。

日 程：平成23年2月4日～9日（2月5日～6日グランドスラムパリ）

派遣役員：福田二郎会長、鳥海又五郎副会長、関根 忍副会長兼専務理事、  
渡辺軍三常務理事、長谷川寛常任理事、天野 修常任理事、森 義昭常任理事  
以上7名

財団法人 東京都柔道連盟  
常務理事 渡辺 軍三







